

経営発達支援計画

H28年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(平成28年10月～12月期調査)

京丹後市商工会

機械金属業・観光業が引っ張りわずかに改善するも 依然悪化傾向の小規模企業景況

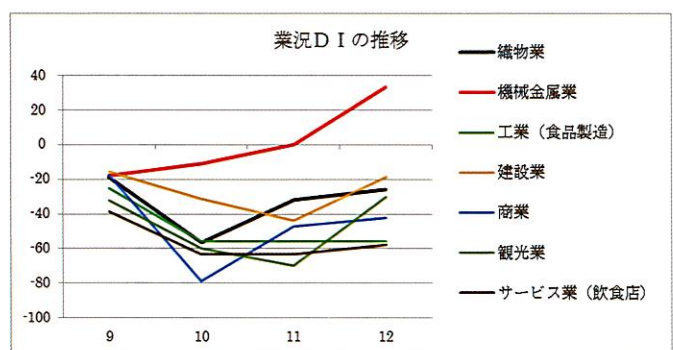
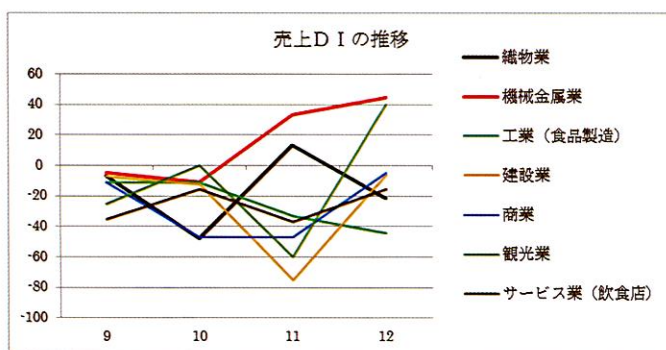
2017年1月30日

<調査概要>

- ◆調査対象:地域内の小規模事業者等105件 ◆調査期間:2016年10月～12月
- ◆調査方法:当商工会経営支援員の巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

<産業全体> 機械金属業・観光業が引っ張りわずかに改善するも、依然悪化傾向の小規模企業景況

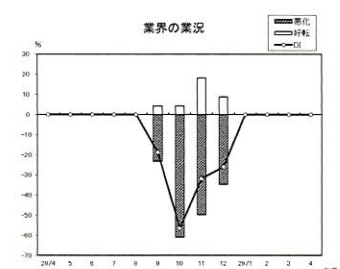
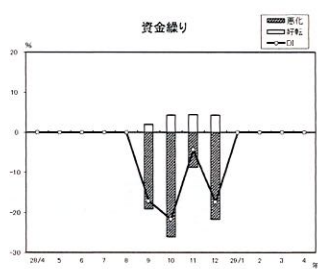
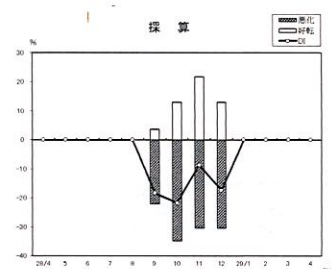
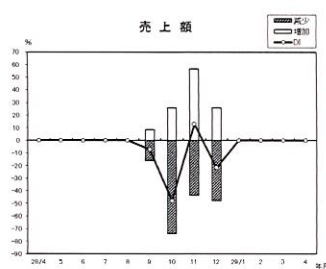
10月～12月期の小規模企業景況動向調査は、産業全体の業況DIはわずかに改善傾向で、項目別においても、売上DI、採算DI、資金繰りDIいずれも12月期に好転に転じたが、低位な水準である。業種別では、機械金属業は全項目、観光業は業況DI以外はプラスとなる一方、他の業種は商業の資金繰りDI以外が全てマイナスとなり、業種によって大きな格差が見られた。経営支援員からのコメントからは、全業種に共通してマイナス要因の意見が多く見られ、来四半期においても依然悪化傾向で推移すると見通す。



織物業

業況は回復傾向のもの織手の高齢化や廃業スピードが増し、依然先行き不透明な織物業

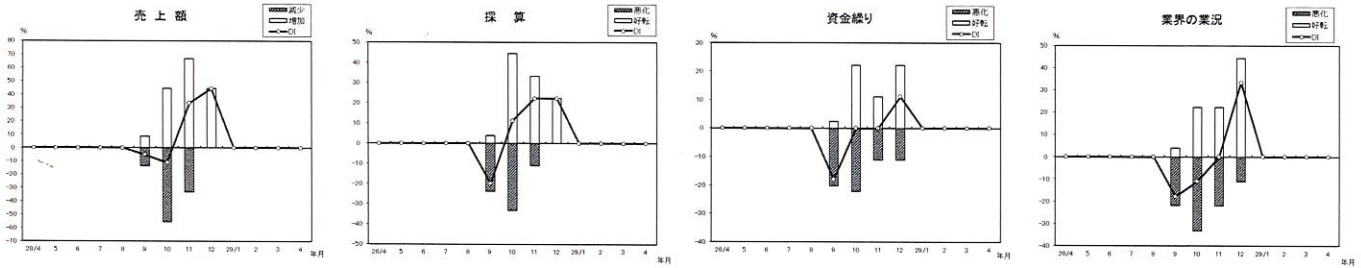
織物業の業況DIは、低位な水準なりにも回復傾向となった。項目別に見ると、全ての項目において11月は回復したものの、12月に業況DI以外は悪化傾向に転じた。経営支援員からは、生産発注量が減少傾向ながらも安定し始めたところ、出機織手の高齢化や廃業等が重なり、一時的な受注増に感じているとの報告があった。今後も織手の高齢化や廃業スピードは増し、人手不足傾向となる見通し。



機械金属業

大きく改善し、引き続き好調をキープする見通しも、予断を許さない状況の機械金属業

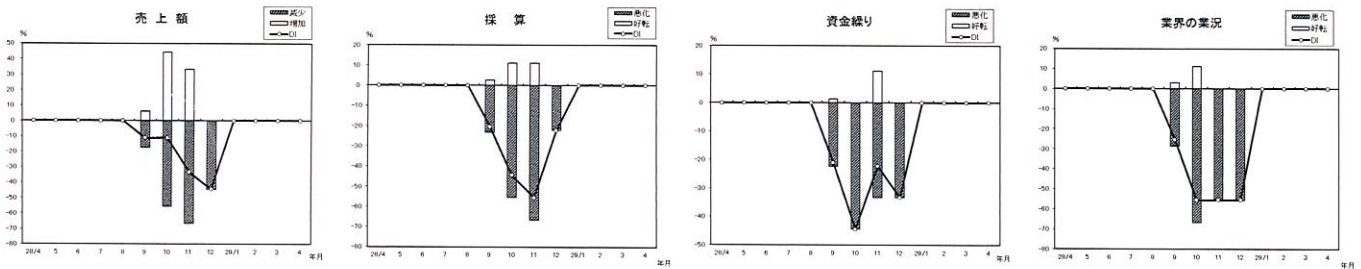
機械金属業の業況D Iは、回復基調が続き12月に大きく回復した。項目別においては、全ての項目において回復した。背景として、補助金活用による設備投資や円安の影響で受注増となり業績を伸ばしている事業所が多い。一方、海外工場を持つ企業との取引している事業所も多いことから、海外での市場動向を懸念する動きが見られる。よって来四半期においても好調をキープする見通しだが、予断を許さない状況である。



工業(食品製造)

原材料の高騰や高齢化による需要の低迷で引き続き悪化傾向の工業(食品製造)

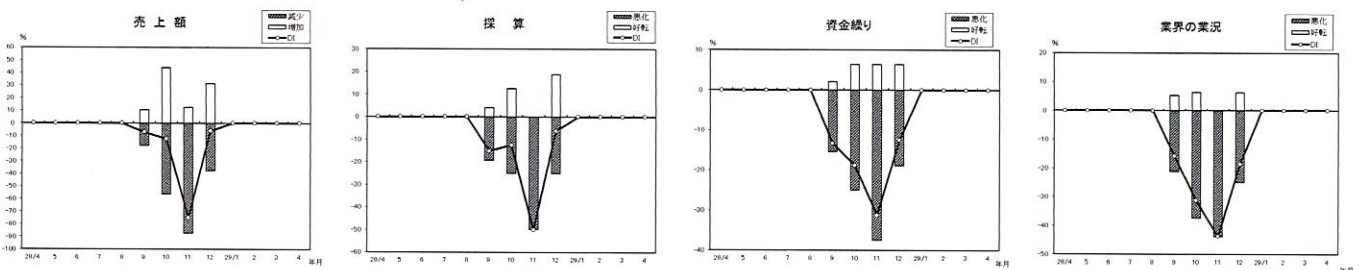
工業(食品製造)の業況のD Iは、高い悪化水準で推移し、変化がなかった。項目別では、売上D Iは3ヶ月連続で悪化。採算D Iと資金繰りD Iは一時的に回復するも依然低位水準であった。背景として円安による原材料の高騰や高齢化による需要の低迷が上げられる。経営支援員からも、好材料の報告が少ない。来四半期においても、海外動向の先行き不透明感も重なり、引き続き悪化傾向で推移する見通し。



建設業

公共工事の発注増により改善の兆しありも、競争力による格差が明暗を分ける建設業

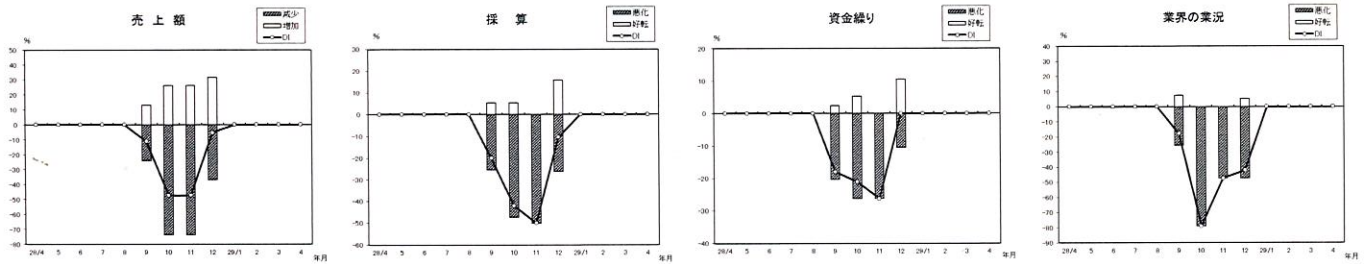
建設業の業況D Iは、12月に回復し、他の項目別でも同様の傾向であった。一部の事業所で公共工事の季節需要が見られるが、全般的に大手ハウスメーカーの進出も顕著で、民間受注の対応に苦慮している。経営支援員からは、府からの公共工事発注は先行き不透明、市の公共工事発注は若干増との報告があった。来四半期においては、競争力による格差が明暗を分ける見通し。



商業

一時的な回復基調も見られるが、需要の低迷で引き続き悪化水準で推移する商業

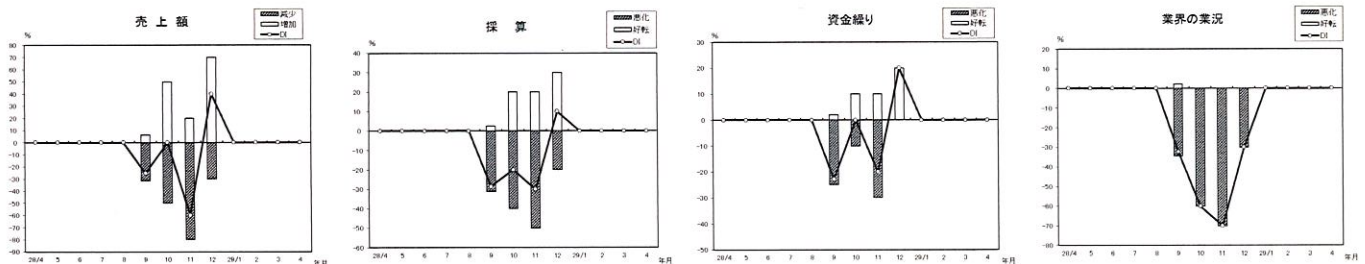
商業の業況D Iは、12月に小幅な回復となった。項目別にみると売上D I、採算D I及び資金繰りD Iいずれも悪化傾向から一転回復傾向となった。背景には年末需要による一時的な回復と見られるが、経営支援員からは、顧客ニーズを捉えて販売促進に繋げる積極的な設備投資の動きもあるとの報告があった。しかし、来四半期は依然、低価格志向の影響による価格競争の激化と商品仕入単価の上昇による需要停滞の見通し。



観光業

好材料が多く、積極的な誘客により好調傾向あるものの格差広がる宿泊業

観光業の業況D Iは、12月に入り悪化傾向から一転大幅な回復傾向となった。売上D I、採算D I及び資金繰りD Iにおいても同様に、大幅な回復を見せ、好転している。しかし、月よっての乱高下が激しく、行楽シーズンの入込客数や蟹の仕入単価が大きく影響していると考えられる。経営支援員からは、高速道路大宮ICまでの開通等といった好材料の他に、海外や国内遠方からの来客など地域の交流人口の増加等を集客に繋げる動きも見られる一方、競争が激化してきており、格差が広がってきているとの報告があった。



サービス業

先月から一転小幅に改善するも、依然として先行き不透明なサービス業

サービス業の業況D Iは、12月からわずかな回復となった。項目別に見ても同様に回復傾向に転じた。年末シーズンにおける一時的な回復と見られ、水準としては低位であり、業況D Iは当地域の最低水準であった。経営支援員からは、食料品の価格高騰が影を落とし、利益確保に悩んでいる報告があった。また、理美容業は、顧客の固定化が進み、来店頻度が低下により利益確保が難しくなっているとの報告があった。

